

## 街中の公園における野鳥観察グループづくり

尾崎雄二・尾崎由紀（昆陽池公園の野鳥観察グループ「チームK」）

### はじめに（設立の経緯）

昆陽池公園とは伊丹市にある公園で、池は奈良時代に造られた「ため池」である。昭和40年代に伊丹市によって公園化され、池の周囲に木々の植樹がされた。以前は冬季のカモ類の飛来数が6,000羽近く（5,965羽、昭和57年ガンカモ調査による。）いたこともあり、渡り鳥の楽園と言ったイメージがあった。しかしながらカモ類の飛来数が毎年少なくなり、平成14年のガンカモ調査では初めて1,000羽を切った。しかしながら近年、春秋の渡り時期に日本で繁殖する夏鳥の観察事例が「日本野鳥の会ひょうご」に報告があり、同会および同大阪支部の会員数名によって個別に観察が行われ始めた。そこで2015年3月に昆陽池公園内で野鳥を観察するグループを作り継続的な野鳥観察や各種活動を開始した。

### 活動実績：昆陽池公園野鳥情報のボード設置

昆陽池公園で野鳥を観察する人達の観察情報を収集し、現在の状態把握と情報の散逸抑制を目的とした「昆陽池公園野鳥情報」という情報ボードを設置した。グループによる日々の観察情報をこの「情報ボード」に記した。すると、当初の目的とは別に公園を日々利用する様々な人々が興味を持ち始めた。利用者の主な利用目的の構成としては下記の通りである。（散歩、健康目的のウォーキング、ジョギング、自然散策、写真撮影、犬の散歩など）近隣住人の昆陽池に対するイメージも「カモの少なくなった寂しい公園」であったが、日々情報ボードに書かれる知らない鳥の名前や美しい鳥の写真を見る事によって、「身近にある豊かな自然がある公園」へとイメージが変化するとともに、一人ずつ野鳥を観察する人達が増えていった。

また最近では安価で簡便な望遠付きのデジタルカメラが普及し、野鳥観察初心者であっても野鳥撮影が可能となった。ビギナーメンバーが撮影した野鳥の鳥種がわからないものはベテランメンバーが確認し種の同定を行った。初認の鳥種を撮影した写真を情報ボードに掲載することでメンバーのモチベーションアップに繋がり、「ボード行き」を目指すメンバー内でのいい意味での競争を煽り野鳥観察熱が高まることとなった。



その他にも下記のような活動を行っている。

その他の活動実績内容

- ① 伊丹市昆虫館主催の野鳥調査・観察会・講習会の立案実施サポート
- ② 日本野鳥の会ひょうごの探鳥会の立案実施サポート
- ③ 伊丹市生物多様性交流フェスティバルへの参加
- ④ 野鳥用巣箱の架設（アオバズクの繁殖サポート）
- ⑤ 生物多様性副読本への協力
- ⑥ タカ渡り 9days の実施
- ⑦ 講演会「昆陽池公園の野鳥～鳥たちの世界～」の実施
- ⑧ 伊丹市昆虫館の企画展「伊丹の自然」への協力
- ⑨ 伊丹市みどり自然課への年間観察鳥種の報告

## 結果

上記の活動の結果、同公園内における観察者数を増やすことになった。またチーム設立の2015年3月28日以降の観察鳥種総数は156種を数え、各年間の観察鳥種も2016年（119種）、2017年（123種）、2018年（137種）と観察者数増加と共に増えた。街中の人工の自然であっても多様な鳥類が生息・利用していることが明らかになってきた。

生態系の消費者・高次消費者である鳥類を継続的に観察しその動向を把握することは自然の復旧や、新たに作り出したりする人為的な創出作業を評価する指標になり、保全・再生への重要な取り組み一つであると考えており、継続的な活動を続けたいと考えている。